

## 平成26年度 医動物・種類同定検査のまとめ(7~9月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、市民、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。昆虫類の種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かるため、効果的な対策を立てることにつながります。平成26年7月から9月の種類同定検査件数は、9件でした。内訳は昆虫類5件(カメムシ目1件、チョウ目1件、ハチ目3件)、その他の節足動物3件(クモ目2件、ダニ目1件)、その他1件でした。

主な検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
一戸建て3階の軒下に多数の虫がみられた	 幼虫、黒色、約8mm	ヨコヅナサシガメ (カメムシ目)	神社や公園などに多く見られる。サクラ、エノキ、ケヤキ、クワ、ヤナギなどの、樹洞や大木の幹の窪みにすむことが多い。多くの昆虫やクモなどを捕食する。
家屋の外壁、雨どいに大量の毛虫が付着している	 幼虫、黒褐色、約8mm	ヤネホソバ (チョウ目)	背面の瘤起には沢山の毒棘がある。刺されると痛く、発疹ができる。関東地方では年3回の発生で、蛹で越冬する。幼虫は屋根瓦や板塀などに生じた苔類に発生する。
校庭の砂場に多数の虫がみられる	 成虫、黒褐色、黄色、約23mm	ハナダカバチ (ハチ目)	砂地に穴を掘って営巣する。幼虫の餌はアブ類、ニクバエ類、キンバエ類、ハナアブ類などのハエ目の成虫である。餌は随時補給する。
校庭の砂場に多数の虫がみられる	 成虫、黒褐色、約12mm	ヤマトスナハキバチ (ハチ目)	成虫は砂地に営巣する。幼虫はカメムシ目のヨコバイ類*やキジラミ類*を食糧とする。 *ヨコバイ類、キジラミ類 セミを微小にしたような姿をしている。植物の液を吸う。  ヨコバイ類の一種

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
庭にボール状の巣があり、周囲をハチが飛んでいた		スズバチ (ハチ目)	巣は木の枝、壁、墓石などに泥で作る。巣の外観は土の塊のように見え、中に幼虫室が複数ある。
サイクリングロードのススキの葉にクモが巣をつくっている		コマチグモ属の一種 (クモ目)	ススキ、ヨシ、カヤなどの葉を曲げて住居をつくり、その中に産卵する。咬まれた際の痛みは激しいが、致命的ではない。
公園でクモを捕獲した		ジグモ (クモ目)	生垣、塀、家の土台、樹木の根元などに、地中から地上にかけて長い管状住居(10 cm程度)をつくる。地上部に昆虫類などの獲物が触れると、住居ごしに咬みつき中に引きこむ。
右上腹部にマダニを発見した		ヤマトマダニ (ダニ目)	雌雄ともに多くの大型・中型哺乳類に寄生する。吸血すると雄は体重が数倍、雌では数百倍に達する。ヒト寄生例は日本のマダニ類の中で最も多い。
床の上に糞のような黒い塊が落ちている。		炭水化物	昆虫類及びげっ歯類の糞ではない。加熱により炭水化物を焦がしたような匂いを発した。

【 検査研究課 医動物担当 】